

オマーン・サイハタットウィンドウにおける高圧変成岩の変形構造

Deformation of high-pressure rocks in the Saih Hatat window, Sultanate of Oman

溝上 周作[1], 山浦 洋平[1], 釘宮 康郎[2], 増田 俊明[1]

Shusaku Mizokami[1], Yohei Yamaura[2], Yasuo Kugimiya[2], Toshiaki Masuda[2]

[1] 静大・理・生地環, [2] 静大・理・環境

[1] Inst. Geosciences, Shizuoka Univ., [2] Inst. of Geosciences, Shizuoka Univ.

オマーン北東部サイハタット地域には高圧変成岩が広範囲にわたり存在している。この高圧変成岩の原岩は先カンブリアンから白亜系までの陸棚性の堆積物や、先二畳系の大陸地殻の基盤とされており、将来のオマーンオフィオライトがアラビア大陸に乗り上げる際にその下に潜り込んだと考えられている。この地域において、露頭から薄片規模に至る線構造、非対称構造などの変形構造を調べた。露頭でのS-C構造、非対称構造、及び剪断帯の微小構造から求められた剪断センスは上盤が南西から北東方向である。

アラビア半島の先端に位置するオマーン王国の首都マスカットの南に広がるサイハタット地域には高圧変成岩が広範囲にわたり存在している。この高圧変成岩の原岩は先カンブリアンから白亜系までの陸棚性の堆積物や、先二畳系の大陸地殻の基盤とされており、大陸性のものである。これらの岩体はコンティネンタルサブダクションにより、将来のオマーンオフィオライトがアラビア大陸に乗り上げる際にその下に潜り込んだと考えられている。従って本地域の岩石にはコンティネンタルサブダクションについての力学的情報などが残されているものと考えられる。

本ポスターでは露頭から薄片規模に至る線構造、非対称構造などの変形構造を調べた結果を報告する。露頭でのS-C構造、非対称構造、及び剪断帯の微小構造から求められた剪断センスは上盤が南西から北東方向である。また、それ以外の変形構造(コーツァイト中のルチル、石英、及びエクロジャイト中の藍閃石の線構造、大理石及び弱変成石灰岩中に見られるポーフィロクラストのようなクロツツ構造)についても報告する。